



# 観光施設メディアラボ

公益社団法人国際観光施設協会編



株式会社アート  
アートグラスアドバイザー

溝口 季枝

## はじめに

「蝉の羽」のような透け感のある上質な麻織物「能登上布」って皆さん、ご存じですか。そんな能登上布に初めて出会ったのは国際観光施設協会からのお引き合わせでした。

能登上布と協会とは、能登半島被災地復興支援委員会の現地視察で交流が生まれました。

「復興支援の一環」と「伝統技術を現代に生かす試み：デザイン温故知新／インテリア分科会研究テーマ」の両側面から、「何かコラボレーションできる可能性があるのでは」と、インテリア分科会内田分科会長のご紹介で能登上布の織元である山崎麻織物工房の久世専務にお引き合わせいただきました。

当社は1981年より愛知県岡崎市でオーダーメイドのアートグラスを制作しており、さまざまなご要望にお応えできるようになってきました。(中日ステ

ンドアート HP <https://www.studio-csa.com/>)

私たちの技術により、能登上布に新たな息吹きをかけられないだろうか。

久世専務より「麻織物とインテリアデザインとのコラボレーションに大いに興味がある」との言葉もいただき、両者でトライすることになりました。

## 布とガラスで何か生まれませんか

能登上布の魅力は丹念に織り上げられた糸の密度と、そこに宿る凛とした美しさにあります。私たちはこの繊細な質感を持つ伝統美の麻織物とガラス素材を掛け合わせ、新しい建築表現へ昇華させることを目指しました。

まずは数種類の能登上布をご提供いただきました。久世専務とミーティングを重ねながら、ガラスに適した織物を選定し制作してみました。

実際に手にした布は想像を超えるほどの繊細さで、上質な透明感をたたえており、そのまま素材として完成されておりました。

その美しさを損なわぬようあえてシンプルに、ガラスとガラスの間に挟み込む方法で試作を行いました。加工時には、気泡の混入や風合いの変化が懸念されましたが、結果は良好。

布の柔らかな表情とガラスの透明感が溶け合い、お互いの魅力を引き立てる仕上がりとなりました。

上質な布をガラスに挟み込んだもの(写真①)と、反物の端部の細い縦糸を挟んだもの(写真②)とを二種類試作してみました。前者は、能登上布の美しさ

## 能登上布とは

上布とは上等な麻織物のこと。能登上布の起源は約2000年前と伝えられております。日本の五大上布の一つとされ、かろやかで、光沢があり、ひんやり涼しい最高級の夏着物であります。明治時代皇室の献上品に選ばれるまでになりました。昭和初期の最盛期、織元の数は120軒以上になり、麻織物の県生産量が日本一になりましたが、戦後着物離れが進み、現在「山崎麻織物工房」が唯一の織元になりました。(能登上布 HP より)



能登上布の糸

が一片の画布のように仕上がり、後者は麻布の糸が風を感じさせるものとなりました。両者とも新たなデザインの可能性を感じさせるものであります。



能登上布の夏着物

# 能登を伝える⑨ 能登上布との出会い—古来からの麻織物とアートガラスの新たなデザインの可能性を求めて

(株)中日ステンドアート  
アートガラスアドバイザー

溝口 季枝



写真①



写真②



山崎麻織物工房久世専務との打ち合わせの様子



中日ステンドアートのスタッフ

## 今後の展開

- 早速のお問い合わせ 久世専務もご自身のネットワークでこの取り組みについて発信され、早速、金沢の工務店からサインパネルへの採用の引き合いがありました。(諸事情で実現せず)
- 次は「糸」 布の次に素材の麻糸とアートガラスのデザインに取り組んでい

ます。麻の腰と張りのある素材感を活かしたものにしたいと考えます。

- 能登ルームでの展示 2026年2月に開催される国際ホテル・レストラン・ショーの協会ブースで「能登ルーム」等テーマ展示を行ないますが、そこでアートとして展示されることになりました。

この唯一無二の美しさを、どのように

して建築デザインの中に生かしていくかが大切と思われます。伝統工芸と素材技術の融合から、一つの新しいデザインの可能性が広がっていく試みとなりました。

今般は伝統技術による手織りの麻織物とアートガラスとのコラボレーションが、やがて能登の織子さんたちの心を勇気づけることにつながればと今後も会員皆さまと努力してまいりたいと考えます。

連載

SERIES